

第3回 日向市立地適正化計画策定委員会 議事要旨

件名	第3回 日向市立地適正化計画策定委員会
日時	令和2年2月28日(金) 15:30~17:00
会場	日向市役所4階委員会室
出席者	座席表のとおり
内容	<p>1. 開会</p> <p>2. 委員長あいさつ</p> <p>3. 協議事項</p> <p>(1)第1回委員会の要旨について</p> <p>(2)(案)まちづくりの方針と誘導方針・区域について</p>
委員	<p>「リラックス・サーフタウン」の表現の使い方について</p> <p>リラックス・サーフタウンの「言葉の使い方」と「意味合い」は、現状において、市民に周知を図る説明が、明文化されておりません。よって、立地適正化の上位計画となる第2次日向市総合計画（後期計画）策定の中で定義等を行い、立地適正化計画における表現の使い方を整理して欲しい。</p>
事務局	調整していきます。
委員	<p>計画書の構成等について</p> <p>① 立地適正化計画の内容が、市民や関係者にも理解しやすいように「文字の大きさ」「読みやすさ」に配慮して欲しい。</p> <p>② 「日向・東臼杵地域公共交通網形成計画」に記載されている道の駅「とうごう」の乗継機能に係る表現については、道の駅「とうごう」の計画や整備の方向性を考え、再度、整理して欲しい。</p>
事務局	<p>① 「文字の大きさ」等は工夫します。</p> <p>また、法律用語・専門用語等の解説等を加えていきます。</p> <p>② 今後は立地適正化計画と整合を図りつつ、現状にあった使われ方で整理していきます。</p> <p>③ 最終的に「概要版」も市民公表に向けて作成を予定しています。</p>
委員	<p>道の駅「とうごう」（都市計画区域外）について</p> <p>中山間地域にある道の駅「とうごう」の駐車スペースは、防災拠点、交流拠点として機能していく必要があります。今後、交通結節機能として機能を高め</p>

	<p>ていく場合には、県も協力と調整をおこなっていきます。</p>
<p>委 員</p>	<p>定量的な目標値と施策の達成状況に関する評価方法について</p> <p>今後、数値目標の設定やPDCAについては、定期的な見直しは必要であると考えます。</p> <p>数値目標については、市民に解りやすい指標が必要だと考えます。目標値にあっても、現状維持が重要であります。人口密度に関する指標は、慎重に検討して欲しい。</p>
<p>事務局</p>	<p>次年度、目標設定等も踏まえ、議論をお願いします。</p>
<p>委 員</p>	<p>公共交通網形成計画の変更について</p> <p>道の駅「とうごう」における交通結節機能の強化や国の補助金が継続するのかなど、公共交通網形成計画の変更時期も近づいていますので、今後、内容についても早めに関係者に共有していく必要があると考えています。</p>
<p>委 員</p>	<p>誘導施設（専門学校、図書館）について</p> <p>「立地施設」もしくは「誘導施設」として専門学校と記載されているのは、「日向高等専修学校」の事であると察しますが、「専門学校」の表現で良いのか？確認して欲しい。</p> <p>図書館については、戦略的に誘導することを考えているのか？</p>
<p>事務局</p>	<p>誘導施設については、最終的に法律等の区分で整理し、記載します。</p> <p>図書館は、総合計画等の市民アンケートでもニーズの高い施設です。</p> <p>今後、都市機能誘導区域に誘導する施設としても考えています。その他、資料に記載されていませんが、老朽化している「日向市老人福祉センター（春原町）」も考えられます。</p> <p>誘導施設に位置付け、都市機能誘導区域内に誘導する場合には、国の支援も有効に活用できます。</p>
<p>事務局</p>	<p>日知屋地区における「都市機能誘導区域の設定」について</p> <p>前回の資料では、日知屋地区は、既に「ロックタウン日向（イオン）」の大型店舗付近を都市機能誘導区域に設定する案も検討しましたが、海に近く津波被害の想定もあります。一方で、曾根、堀一方地区など低層の住居地域と県道沿線の路線型商業店舗による落ち着いた土地利用の状況となっていますので、都市機能誘導区域を設定し、特定の誘導施設を誘導していく地域ではないと考え</p>

全委員	<p>ています。</p> <p>特に異論なし。</p> <p>《会議終了》</p> <p>※令和2年度は、「第3章 誘導施策の検討」、「第4章 定量的な目標値及び施策の達成状況に関する評価方法の検討」について議論をお願いします。</p>
-----	--